

研究だより

No. 11

押水第一小学校

令和4年 12月8日

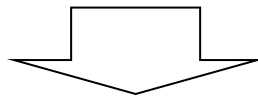
12月5日 ひまわり研究授業(東先生)より

東先生に算数科「データの特ちょうを調べて判断しよう」の授業をして頂きました。整理会で成果・課題・改善策について中能登教育事務所指導主事の竹下先生より助言をいただきました。

視点1: 課題を解決するために、繰り返し発問をして、ドットプロットのどの部分からそう思ったのか詳しく説明ができるようにする。

視点2: 本時の学びを自覚するため、書く視点を提示し、その視点に沿ったふり返りを書く場を設定する。

成果	<ul style="list-style-type: none">・本時の流れが掲示してあり、児童の見通しがもてるような工夫があった。・教材の準備がたくさんしてあり、時間短縮にもなっていた。・児童が気付いたことを書く時には、間違いを訂正する等の声掛けがあり、よかった。・「どこからそう思ったのか」問い、児童に前に出て指をさすような動きがあったのが良かった。
課題	<ul style="list-style-type: none">・「差の平均」ではなく、もともとの数字で平均を出した方がよい時もある。例えば58秒・62秒の差はそれぞれ2秒だけど、その2秒にまとめたら60秒より大きい数字なのか小さい数字なのか、「2秒」からでは分からない。・データのちらばりが分かりにくかった。・重なっているドットに児童の目が向いていたので、最頻値を出してもよかった。・差が「小さい」と「多い」ではなく、「小さい」と「大きい」。
改善策	<ul style="list-style-type: none">・教科書のようにもともとの数字を使ったデータを使って考える。・散らばりの様子が分かるようなデータにする。・算数用語、言葉を正しく使えるように、機会をとらえて指導する。



明日から全員が実践すること

◎ (教科書のように) 児童に付けたい力をつけるために、どのような意図で、どんな教材をどのように取り上げるか吟味する。